Section 2013 PG-STEAMER 製品紹介

この章では PG-STEAMERの特徴と操作における共通ルールをご紹介いたします。

<u>A. 製品構成</u>

本製品PG-STEAMER(以下PGS)は、リモートセンシングから地理情報システム(GIS)までの機能を 幅広くカバーしたオールインワンソフトです。アイコン選択のみの直感的な操作がおこなえます。

<u>B. 起動/終了方法</u>

PGSの起動は、デスクトップのアイコンをダブルクリック、または Windowsスタートメニューから 行います。最初に現れますウィンドウを「メインウィンドウ」()と呼びます



(1)スタートメニューからの起動方法

Windows画面のタスクバーより [スタート] [プログラム] [Pixoneer PG-STEAMER4.1] [PG-STEAMER 4.1] をクリックするとメインウィンドウが立ち上がります。

(2)終了方法

メインウィンドウ右隅の[Quit]アイコンをクリックすると、PGSを終了します。

<u>C. メインウィンドウについて</u>

メインウィンドウは上下二段構成となっています。 上段はメインメニュー(目的ごとに8セクション)。下段はサブメニュー(実行機能)。



データ管理・検索: Catalog
 2次元表示・編集: Image Composer
 G I S 処理: Vector Composer
 3次元表示・編集: 3D Composer

レイアウトデザイン: Map Composer ファイル入出力・編集: Tools and Utilities 画像処理: Image Processing 標高データ生成・編集: DEM Tools

メインメニューの ~ を選択すると、各ビューワーが起動し、そこから表示・編集をおこない ます。メインメニューの ~ を選択すると、サブメニューが切り替わり、各アイコンからさま ざまな処理を実行します。

<u>D. 専用データフォーマット・XDMフォーマット</u>

PGSでは、すべての画像データを専用データフォーマット(XDM)に変換してから解析をおこないます。 さまざまな形式の画像データをXDMに統一することで、よりスピーディーな処理を可能にします。 このXDMからJPEG、Tiffなどの汎用フォーマットや他ソフトフォーマットにも再変換出力もできます。





統一するので高速処理が可能

解析せずに表示するだけであれば、汎用画像データ(BMP、JPEG/JPEG2000、GioTiff/Tiffなど)を 変換なしに直接表示することもできます。解析処理をおこなう場合は、必ずXDMに変換が必要です。 Shape、DXF、KMLなどベクタデータは、変換なしに表示編集ができます。

PGS専用フォーマット各種

ラスタ画像系:

- .xdm PGS専用 画像フォーマット(主として使う形式です)
- .xhm PGS専用メタデータフォーマット(XML)(.xdmと対になって使用します)

ベクタデータ系:

- .XVC PGS専用 ベクタフォーマット
- .xpt PGS専用 独自テキスト型ポイントベクタフォーマット(XYZ値+属性)
- .mdb PGS専用 属性データベース(MS-Office Accessフォーマット)

その他

- .idp プロジェクトファイル(行った処理や表示の設定を保存し、再現できます)
- .imp レイアウト機能MapComposer用のレイアウトファイル(作成したレイアウト設定の保存)
- .pal パレットファイル(画像の色付けを行うカラーパレットファイルです)
- .3ds 3次元表示機能3DComposer用の立体オブジェクトデータ
- .mtd ASCII_Multi_Target_Data (Path Analysis 用経路データ)
- .txt テキストファイル(さまざまな情報をテキストファイルとして出力できます)

「表示した画像の拡大縮小・スライド」

マウスカーソルを表示した画像の上にあててマウスで操作します。



「処理の対象エリアを指定」

サプメニューから開いた各処理ウィンドウにある、 🕢 アイコンから下記ダイアログを表示 させると、画像全体のうちの処理をおこなうエリアを指定できます。

指定方法は2通りで、<u>A:数値入力、B:画像の黄色い枠をマウスで縮める</u>ことで指定できます。

🕸 Select Sub Region 📃 🗖 🗙						
💿 Subset Pix	el Coordinate		>			
X Range :	1591	,	3504			
Y Range :	729	,	3439			
Subset World Coordinate						
X Range :	126.977642529412	,	127.371789196078			
Y Range :	36.2459779215686	,	36.5414822352941			
数値入け	うして――	E	Apply Edited Coord			
				枠を直接ドラック&ドロップ		
				OK Cancel		

「処理結果を重ねて比較」

処理後に、サブメニューから開いた各処理ウィンドウにある、



「処理結果をチェッカーで比較」

処理後に、サブメニューから開いた各処理ウィンドウにある、 20 アイコンを押すと、 元画像と処理結果画像の上にチェッカーをリンク配置し、画像間の同一箇所を比較できます。 クリックで移動します。



「処理結果のファイル保存」

処理後に、サブメニューから開いた各処理ウィンドウにある、 「記ダイアログを表示させ、処理結果のファイルを["]xdm"や"Tiff"フォーマットに保存できます。 (その他のフォーマットへの変換出力は、別途サブメニュー"Export Image"でおこないます。 チュートリアル2章参照。)

🕸 Save to File						
File Name: test.img 数値入力して切り出し	出力先選択 File Name					
X Range: 710 ~ 1731 Y Range: 462 ~ 1752	>					
Reset Use Other File Apply Edited Bound						
Spectral						
Band List Band 1 : PRDAT011.DAT Band 2 : PRDAT011.DAT Rend 2 : PRDAT011.DAT	and the second second					
Band 4 : PRDAT011.DAT Band 5 : PRDAT011.DAT Band 5 : PRDAT011.DAT Band 6 : PRDAT011.DAT						
出力必要バンドの選択	枠を直接ドラック&ドロップ して切り出し					
Dependent All Dependent All Output(NX,NY,Band(s),DataSize) : 1022 × 1291 × 4 × 1 (5,277,608Bytes) Save						

- ・ File Name で保存先と保存するフォーマット(XDMかTiff)を指定します。
- ・ 必要な場合は、Spatial欄へ数値入力、または右ウィンドウの黄色枠を縮めることで、 一部を切り出して保存できます。

また、Use Other File... から別の画像やベクタデータを呼び出し、それらと同じエリアだけを 切り出すこともできます。のちに鳥瞰図として重ねるなどの際、対になる画像に合わせて 切り出すと有効です。

・ 必要な場合、Spectral欄のチェックを外し、不要なバンドを除いて保存することもできます。